
「嫌だ」

カタミチ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「嫌だ」

【ZPDF】

Z8635A

【作者名】

カタミチ

【あらすじ】

今日のあなたの笑顔は偽りのようだった。その理由を聞いた私の気持ちが渦を巻いて混乱し始める…

私の心の中で雨が降っている。ザア ザア つて大きな音を鳴らして。

「ばかじゅん……」

くしゃと髪を搔き上げて誰にも気付かれないように静かに泣いた。

数時間前はあんなに笑っていたのに。どうして今は泣いているの？

「ばか彩斗……っ」

“幼なじみ”

ずっとお隣をんだつた彩斗に私は恋していた。

物心ついた頃には意識するようになり、ずーっとジキドキしていた。

毎日窓を突つくり笑顔で笑つて……話をしてくれた。近くに居てくれる存在が物凄く愛しかった。

今日も、楽しく笑い合つていた。いつも通りに。

でも、気付いてしまった……彩斗の偽りの笑顔に。

“どうしたの？”

こんな無責任な言葉言えなくて。悲しそうな笑顔を見るのが辛くて

どうしようもなかつた。

11

途切れた会話。彩斗はそつと私に話し始めた。

「俺さ、今日振られてきたんだ」

—
—
—
—
え

あまりに想像しながら言葉に驚いて何の反応も出来なくて

嘘。振られたつて……誰に？好きな人、居たの。

「いつもが、なんかあると励ましてくれて…ずっと好きだったんだよな」

彩斗は苦笑いをして私に言った。

二二

ずっとつていつから?いつからその子のこと好きだつたの...?

「ルーフ」

「えつ？」

私の中で渦を巻く。ぐるぐる、そして闇のよつに黒く。

「なんで」

抑えきれない位のショックで勝手にパニックを起こしていた。

“彼女”みたいな感覚が私の中で勝手にあって。勘違いしていたバカ女で。

恥ずかしい…つ。

「バカみたい」

自分だつていつも励ましてきたつもりだつたのに…つその子には敵わなかつたんだ。

私の励ましなんか彩斗に…つてはビリでもなかつたんだ…。

「どうしたんだよ」

なにも知らずに聞いてくる彼が無神経だと思つた。

「…ば…か…あ」

私は彩斗が好きだつたんだよ…ずっと一緒に笑つて…つと思つてたんだよ…

けど今はもう苦しいだけ。

「好き」

だから。苦しいから、吐き出しちゃった。

「……え」

するこのせ分かつてゐる。けど言つたかった。私の気持ちを……私の存在を分かつて欲しかつた。

「私じゃ……ダメかな?」

泣き声にならながり。壊れ声になつながら精一杯言葉にした。

「けど、

「『じめん』

彼はためりつゝとも、考へるゝともせずに私に言葉を返した。

【ダッシュ】

走りだす。逃げて、逃げて逃げて……

「……ひ……わああ……」

辛くて、あつけなくて、ぐしゃぐしゃになつた赤。

悔じくて。でももつと悔じこのは……素直な気持ちを言われたのに、まだ好きなど」と。

彩斗が好きで好きで堪らなこと。

諦めたいのに諦められない……ひー

「…」

言葉にならなこぐらに苦しこ、寂しこ。

もひ彩斗とは笑えなこよ。もひ…駄目なのかな?

泣き虫じやん。なんでこんなに泣こてるのかな。

好きだつたけど、今はもつと…好き。

悔しこたび、もつともつと好きなんだ。

言葉にしたら、どんな言葉になるんだろう?

今の気持ち、胸の苦しみ。涙の意味。

…なんなんだね?。

そつ離れていたら込み上げてきた。

「嫌だ」

それが私の今の気持ちだった。

END

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8635a/>

「嫌だ」

2011年9月22日18時53分発行